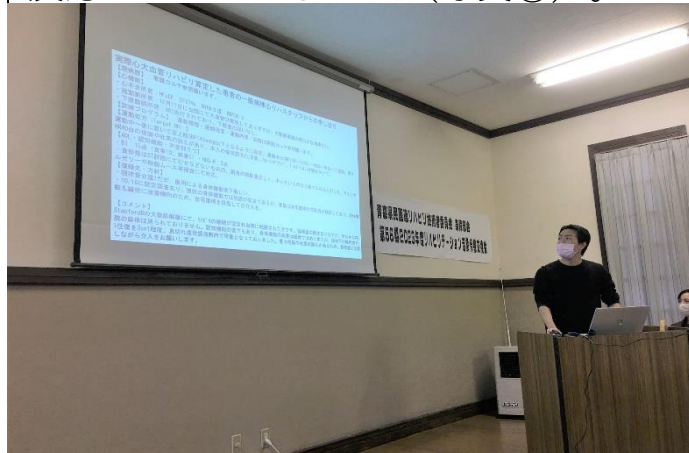


回復期リハビリテーション病棟での
心臓リハビリテーションが開始され1年が経ちました。

2023年度の心疾患患者の受け入れ実績は2024年2月末までで48名と2022年度の心疾患患者の受け入れ実績の27名からすでに21名増加となっており、今年度は昨年度の倍の患者を8F病棟で受け入れました。心不全増悪後の患者は28名と全体の約6割となっていますが、今年度から心大血管リハビリテーション料算定している、急性心筋梗塞や大動脈解離の術後転院患者さんなども8名、約17%実施できました(2024年2月末で1652単位)。

今年度の取り組みとしては、8階病棟リハビリテーションスタッフへ心疾患リスクがある患者に介入する際の助言、相談窓口の開設、心電図モニターなどの機器の使用法指導に力を入れ取り組んでいきました。

11月には健生病院リハビリ科と共同開催されたリハビリテーション活動情報交換会にて取り組みについて発表しました。皆様からは指導方法や心電図モニターなどの機器を使用したリスク管理について大変興味深かったなどの反応をいただきました(写真①)。



写真①取り組みの発表している様子

今後の課題としては、今年度は心肺運動負荷試験(以下CPX)が実施可能な患者様がならず未実施だった為、来年度は実施可能な患者には積極的にCPXを行っていきます。

適切な運動負荷で退院後の生活が出来るよう本人・家族・ケアマネージャー等に対して指導し、運動・食事・薬物療法を退院後も手帳等で管理して再発予防を行っていく事が大事になります。

また、回復期リハビリスタッフを対象とした心疾患についての学習会・携用心電図モニターを使用している心疾患リスクを考慮した退院前訪問・退院後訪問での再指導などを今後も随時行っていく予定です(写真②③)。



写真②モニター装着しての家屋調査



写真③家屋調査時の携帯用モニター